

白石城を核としたまちづくり

令和7年10月9日

宮城県白石市

都市創造課 高橋 雄一

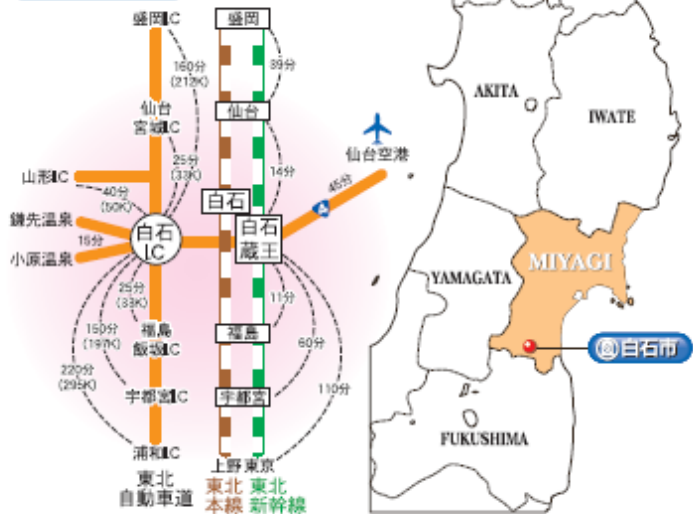
白石市の概要

北緯38度線上。

東經140度36分周辺。

宮城県最南端

アクセス



位置・アクセス

▶ 沿革

- ・ 昭和 2 9 年に 1 町 6 村の合併により「白石市」が誕生。
- ・ 昭和 3 2 年小原村が編入され現在の形となる。
- ・ 令和 6 年（2 0 2 4 年）市制施行 7 0 周年

▶ 人 口 30,370人 (令和7年3月末)

▶ **世帯数** **13,971世帯**

▶ **位置** 東經 147°37' 北緯 37°59'

▶ 面積 286.48 km²



白石市の概要



白石城

※平成7年に木造にて忠実に復元



鬼小十郎まつりの合戦シーン



鎌先温泉・小原温泉



白石うどん

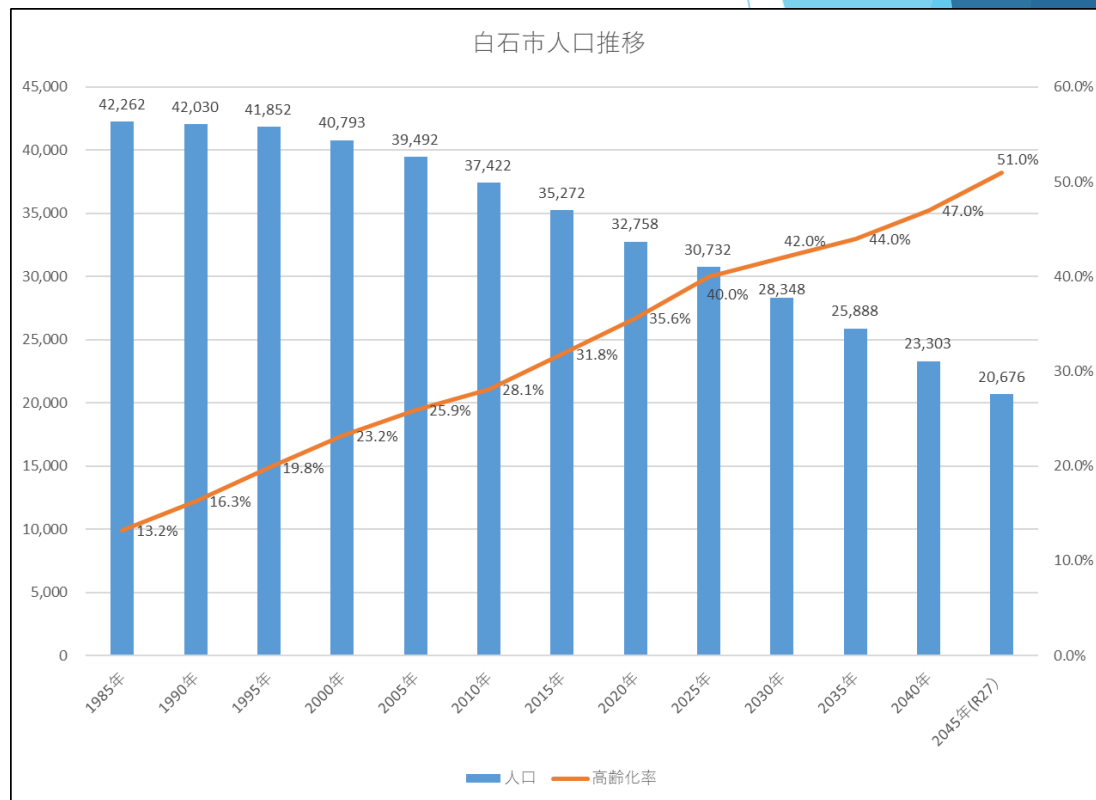
白石市の概要

①人口の推移と予測

当市の人口は1985年の42,262人をピークに減少を続け2025年には11,892人減り30,370人となり、2045年にはピークの半分以下20,676人と減少し、高齢化率も51.0%と2人に1人は高齢者になると予測されています。

②人口減少と高齢化が進むと

- ・ 生産年齢人口が減少することによる
労働力不足
- ・ 税収減による行政サービスの質の低下
- ・ 空き家の増加
- ・ 地域経済の縮小
- ・ 地域経済が縮小することにより、労働の機会が減る、また、地域のサービス（買物や飲食など）衰退の原因
- ・ 地域の文化の衰退



2025年以降は 社会保障・人口問題研究所による予測

これらの他にも影響が生じ、**人が減る事は市の衰退につながる。**
人口減少に歯止めをかける必要。

白石市の歴史

①戦国時代以降

- ・ 1591年 豊臣秀吉の奥州仕置後、伊達政宗の家臣である**片倉小十郎**が**白石城主**につく。
- ・ 以降260年間にわたり片倉氏が城代を務める。
- ・ 白石城は仙台藩南部防衛の拠点であり、白石城を中心とした城下町が形成された。
- ・ 江戸時代には宿場町として繁栄し、「白石和紙」や「白石うーめん」などの産業が育った。
- ・ 戊辰戦争時、**奥羽越列藩同盟の本拠地**となる。
- ・ 明治7年（1874年）に廃城令により白石城解体。
- ・ 平成7年（1995年）に**史実にもとづき木造で忠実に復元**、令和7年に**開門30周年**を迎えた。
- ・ 白石城は白石市の歴史を象徴する存在として、観光の中心として、「**鬼小十郎まつり**」などのイベントを開催している。
- ・ 今なお白石城や片倉小十郎は白石市のシンボルとしてシビックプライドの核となる存在となっている。



白石城の復元について

概 要

- ・白石城三階櫓（天守閣）は、平成7年(1995)3月に明治7年(1874)に取り壊されて以来120年ぶりの再建。

- ・歴史を永代に伝えるため文化財の保護を重視し、発掘調査を行い、城郭として機能した文政6年再建後の最晩年の構造による三階櫓（天守閣）を史実に忠実に復元。

- ・日本古来の建築様式に基づき、数百年の歳月に耐え得る、**全国的にも数少ない木造復元を行った。**

- ・三階櫓（天守閣）は3階で、1階は東西9間×南北6間、3階は東西5間×南北3間の広さがあり、高さは石垣天端から16.7mがある。



三階櫓（天守閣）は昔ながらの工法を用い、補強金具は使われていません。



数百年の年月に耐え得る城にするため、木材にこだわり、宮大工の手によって組み上げられた。



天守閣の石垣は、「野づら積」で石が積まれ、細かい部分は手作業で石が詰め込まれた。
蔵王山系の安山岩など約3,000トンの石が使われた

白石城付近の歴史的資源

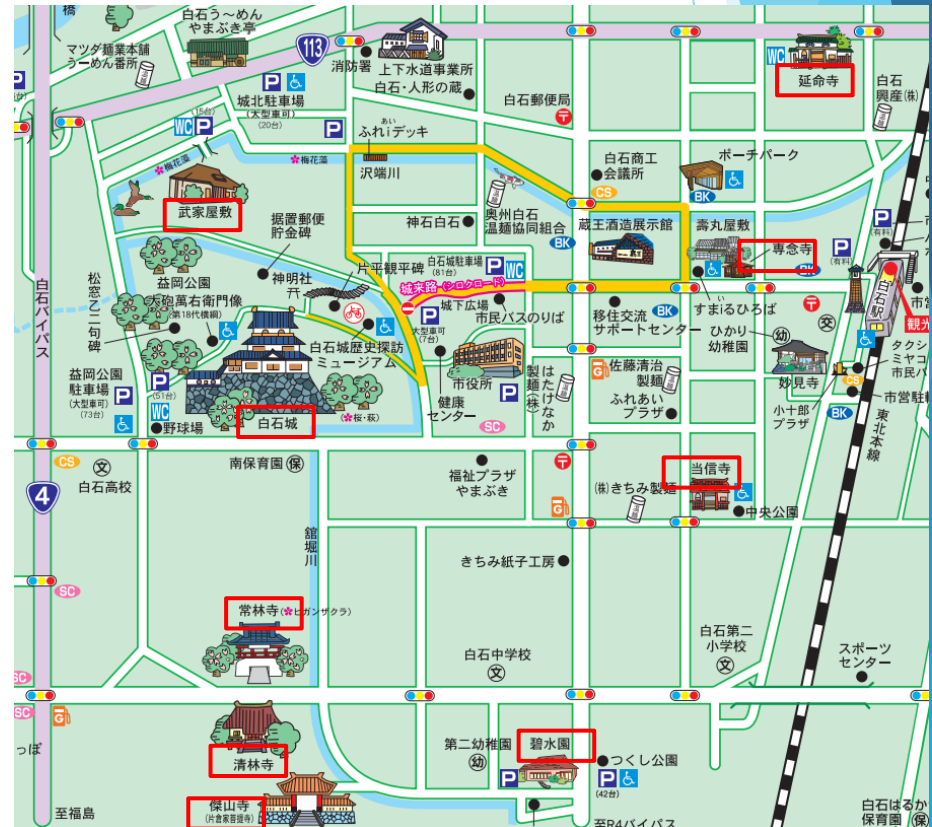
① 武家屋敷

旧小関家は、後小路南側東端の屋敷で、宝暦11年（1761）の白石城下絵図に「小関右衛門七」とあり、この地は中級家中の屋敷であり、小関家は鬱蒼たる庭樹でおおわれ、前面、側面を清冽な水流が巡り、景観的にもすぐれたものがある。
平成3年（1992）に主屋・門・塀が小関から白石市に寄贈されたのを機に全面的に修復された。



② 傑山寺

常英山傑山寺は臨済宗妙心寺派で本尊は枯華釈迦如来で、白石城主・片倉小十郎景綱が1608年3月片倉家菩提寺として創建。
初代景綱の墓は一本杉を墓標にしたと伝え、現在も成長を続けています。
周辺には常林寺や清林寺など古いお寺も点在している。



白石城付近の文化施設

① 碧水園

碧水園は東北で唯一の屋内能楽堂と、茶室を備えた古典芸能のための施設であり、正式名称は「白石市古典芸能伝承の館 碧水園」と言う。

能楽堂は、能舞台、見所、楽屋の三つの部分からなり、京都西本願寺北能舞台を手本とし吉野産の檜の柱、青森ヒバの床板等を用いて構成されている。

見所は、固定席169席、補助椅子席で300席可能、冷暖房設備を完備している。

見所後部のガラス戸を全部開放して、見所の中に庭園を取り込み、自然の中で演能をおこなっているような感じが得られる。



屋内の能楽堂



茶室

白石城を活用したイベント

①鬼小十郎まつり

毎年10月に開催される、白石市の一大イベント。大坂夏の陣で活躍し、鬼小十郎の名を馳せた二代目小十郎重長の活躍を真田幸村との激闘などで再現するもので、片倉軍、真田軍双方60騎の武者による合戦や火縄銃の演武などが行われる。

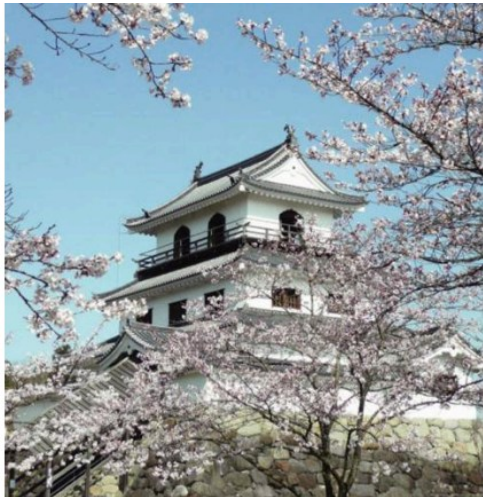
また真田幸村が大坂城落城前夜自らの子女を小十郎重長に託した史実にちなみ、真田の姫「阿梅」の受け渡しをエキストラが演じる。

白石の物産展や甲冑試着コーナーなども合わせて行う、見どころ満載のイベント。



②桜まつり

桜の名所となっている益岡公園を中心に、白石城本丸広場のライトアップや桜まつり期間中には、ぼんぼり(灯り)のもと、幻想的な夜桜も楽しめる。観桜見頃期間／例年4月初旬～中旬



③白石城お茶会

天守閣1階で郷土料理と地酒の点心を、2階ではお濃茶をふるまう。天守閣と碧水園セットのお茶会もある。秋の恒例行事となっている。



観光拠点（白石城周辺）における現状

魅力低下

30周年を迎える白石城や武家屋敷において、新たな整備などは行っていない。また、新たなコンテンツの開発も進まず、マンネリ化している状況となっており、来場者数も平成21年は約8万6千人ほどであったが、現在は約6万1千人に減少してきている。

街並みの景観保全

中心市街地で空き地や空き店舗が目立ち閑散としている状態となり、鉄道駅から白石城や観光拠点への周遊ルートが景観が悪化している。

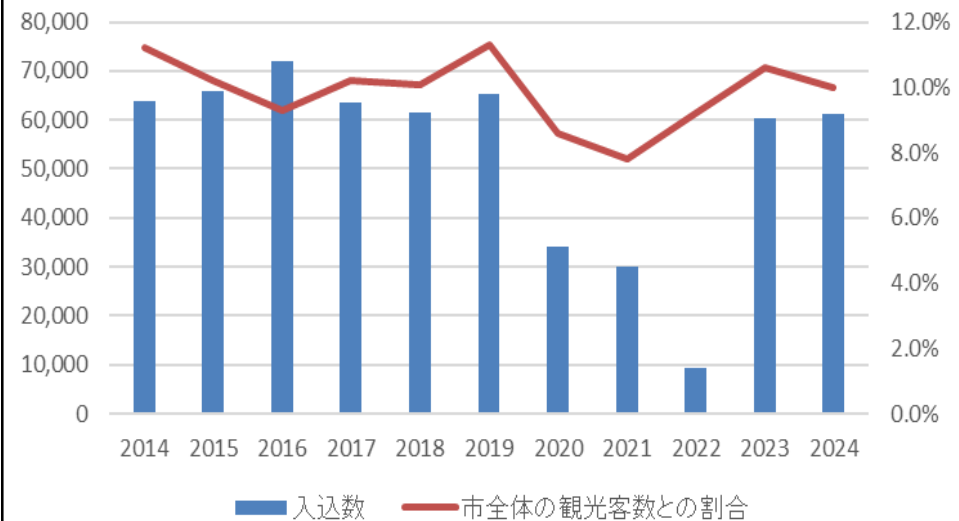
観光拠点の集客力不足

主要観光地点となる白石城・武家屋敷などは市の全体の観光客数の約10%しか来場しておらず、集客力は低い現状にある。

公共交通機関の不足

新幹線駅から観光拠点までの2次交通がバス便も少なく不十分であり、若年層やインバウンド観光客が訪れにくい。また、広域観光にも不十分であり、観光満足度を下げている。

白石城来場者数



観光拠点の魅力低下に伴う課題

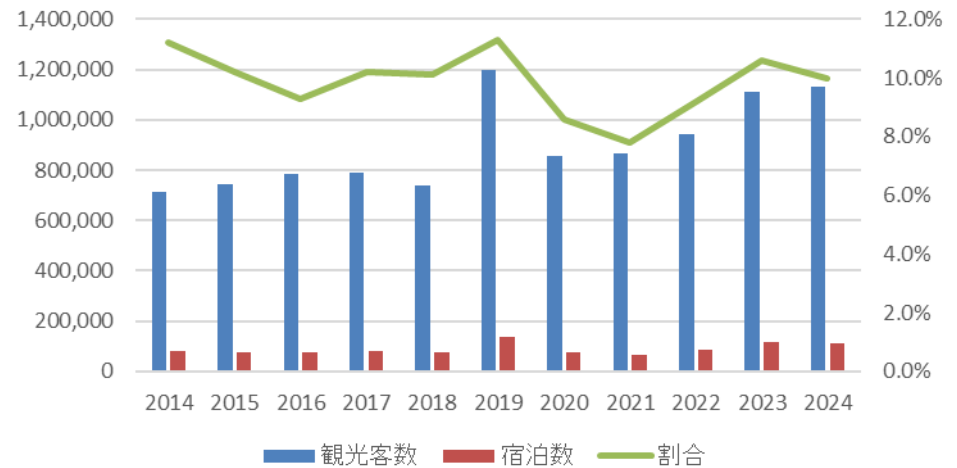
宿泊者数が少ない

本市の宿泊者数は、令和元年に約13万5千人が宿泊し、令和6年には約11万3千人となり、減少傾向にある。本市の令和6年の観光客入込数は約113万人であることから、観光客の90%が日帰り客で、通過型観光地となっており、観光消費額が低いことが課題となっている。

滞在時間の低下

在来線駅のある中心市街地が出発点となっていた、かつての賑わいは失われており、観光コンテンツの連携がなく各観光施設へ直接訪問する限定的な行動となっており、市内の周遊など、滞在時間の低下が課題となっている。

観光客数と宿泊数



観光拠点を活用した賑わい創出

白石城の魅力向上

- ・ 白石城を含めた公園の再整備
- ・ 民間のノウハウを最大限活用
- ・ 無電柱化による景観形成

新たなコンテンツの開発

- ・ プレミアムインバウンドツアー
- ・ 海外プロモーション
- ・ シビックプライドの醸成

滞在時間の延長

- ・ 武家屋敷や周辺観光拠点との周遊性を高め、中心市街地の賑わいを創出
- ・ 温泉などの宿泊との連携

道の駅（事業中）との連携

- ・ 観光拠点の魅力発信
- ・ 中心市街地への誘導
- ・ PFIによる民間のアイデアを活かしたイベント開催



まちの賑わい創出と地域全体の魅力向上

人と地域が輝きともに新しい価値を創造するまち しろいし

「白^{SHIROISHI}石」春夏秋冬。白石の豊かな四季を楽しむ。



ご清聴ありがとうございました